

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会
 TEL 028-600-1725 発行責任者 原田 欣宏
 FAX 028-600-1730 編集責任者 福原 健治
 ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

51号

発行日 平成31年2月15日

羅針盤

社会福祉士にとって平成は何であったか



とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会代表

一般社団法人栃木県社会福祉士会元会長 **大友 崇義**



羅針盤	1
トピック	2
福祉士おもしろいだけリレー	3
会長の視点	3
授産製品・店舗紹介	4~5
今日の一冊	5
情報の広場	6
福祉士会通信	6~7
共同事務所6団体通信	8
編集後記	8

- *平成30年間の社会福祉は、明治、昭和の残滓を抱えた激動の時代である。グローバル化の深化と超少子高齢社会の到来は、社会福祉の基礎構造を変えた。①措置から契約へ、②選別主義から普遍主義に、③保護から自立へ、④中央集権から地方分権に、今、道半ばである。
- *人類は700万年前に誕生した。16万年前のネアンデルタール人の墓には、障害児、高齢者等への花束が添えられ、「共生」の遺伝子は、現代人に組み込まれている。狩猟社会から農業社会に、工業社会に変化する中で、17世紀に世界で、救貧制度を確立した。日本は7世紀に「鰥寡孤独老廢疾」にも口分田を支給した。20世紀の植民地分割戦争は、1億を超える犠牲者から福祉国家を生み出した。その原理は、生存権、幸福追求権等に結晶され、人類の叡智の到達点となった。
- *戦後、日本の社会福祉は激変した。GHQは、7世紀の律令制度の延長にある恤救規則、救護法等の日本的な社会福祉を繰り込み、2,600を超える指令のもと福祉六法体制を確立し、福祉事務所、社会福祉法人を実践の中核とした。しかし、それらの専門性は行政処分の措置方式では、十分に育たなかった。1986年の国際ソーシャルワーカー連盟の東京会議で「日本にはソーシャルワーカーがいない」と批判され、JASWの果敢なソーシャルアクションによって、国は、1987年に社会福祉士・介護福祉士法を「高齢社会の到来」を法案の理由として成立させた。
- *社会福祉の方法は、対象が生み出されるから発達する。平成（1989）になってから世界は激動した。ベルリンの壁が崩壊し、東西のデタントは、南北に変わり、移民・難民、格差社会、少子高齢社会等を背景としてポピュリズムが吹き荒れ、社会福祉の対象は、個人から家族、地域社会に拡大し、国家も対象となった。対象の国民化である。これまでの社会福祉の個別的な方法は統合され、ジェネラルソーシャルワークとなった。現代の社会福祉は、新たに①政策、②経営、③実践の三位一体のアルゴリズムを求めている。全世代型の「地域共生」時代のニーズである。
- *平成11年に栃木県ソーシャルワーカー協会が中心となった6団体のソーシャルアクションによって、県有財産の「福祉プラザ」にソーシャルケアサービス共同事務所を構えた。全国、否、世界はじめての社会福祉専門職団体の共同事務所である。社会福祉士会は、平成6年に発足し、平成19年に社団法人化し、平成21年には協議会の事務を受託し、社会福祉専門職1200名の活動基盤を支えている。社会福祉士会は、ダブルミッションを持っている。会と協議会の「発展」と「共生」である。
- *これからの社会福祉は、①政策、②経営、③実践の三位一体化したホリスティックなソーシャルケアサービスが求められる。2050年にはAIの人知を超えるシンギュラリティが平常化する。既存のサービスを適用するだけの職種はAIによって無用となるだろう。社会福祉の未来は、AIと共生する本格的な「ヒューマンサービス」の実現にある。その核心は、「不幸」を「幸福」に変える「創造」である。宮澤賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」の言は、「ポスト平成」の社会福祉士の創造的な課題である。



トピック

地域をベースに多角的な視点で実践を行っている社会福祉士2名に、それぞれの実践から「地域で暮らす、地域で生きる」ための支援について語っていただきました。

これからの社会福祉士

～私のしごと～ ①



社会福祉士事務所 さくら星の宮 阿部 和史

現在の福祉関係制度をはじめとする各種相談窓口は多種多様にあり、いざ必要になったときに、適切な相談窓口スムーズにたどり着ける事はほとんどないのではないのでしょうか。各種相談をワンストップで受け、適切な支援または助言、リファールを行う事で、たらい回しを防ぐ事がジェネラリストソーシャルワークを行う事によって、すべてではないにしろ可能になります。もう一つは高齢、障がい、少子化、引きこもり様々な理由で人は生きづらさを感じ、自分または家族だけの力では、解決がむずかしい事が多くあります。最近は特に問題が一つではなく、複雑に絡み合っており解決を困難にしています。ばらばらに各専門機関が支援を行っても、解決へはかなりの時間を要したり、解決に至らなかったり、最悪な場合、問題がより深刻化することがあります。このような事から、それらの問題を総合的に包括的にアセスメントし支援をしていける社会福祉士を目指しています。

社会福祉士として、意見を吸い上げて、ソーシャルアクションにつなげていく事が重要とされています。現場をベースに考える事も重要ですが、ソーシャルアクションをどのように行っていくなら自分の力が地域社会に効果的に使えるのかと考えながら日々の業務を行っています。国とまではいなくても、自分が生活している県や市がより住みやすい場所になって欲しいという思いもあり、福祉的側面から社会への働きかけを自分の得意な分野を中心にできる範囲で行っていければと考えています。

最後に、上記の事を長く継続していく為、まずは自分自身を大切に、そして好きでいられるようにと考えながら、プライベートと仕事を充実させて、これからも暮らしていきたいと考えています。

これからの社会福祉士

～私のしごと～ ②



有限会社 ふきのとう 関和 晋

平成最後の会報誌で記事を書くなんて、ひっそりと社会福祉士として働いていた私にこんな大役が回ってくるとは思ってもみませんでした。

社会福祉士の資格をいただいたのが平成17年。早いもので13年も経ってしまいました。13年間ずっと高齢者の分野で働いており、現在は介護支援専門員として7年目が終わろうとしています。

昨年は、皆様の支えもあって、基礎研修Ⅲをやっと終了することができました。基礎研修Ⅰ・Ⅱを2年ずつ、計4年をかけて終了した時点でⅢには進まずに挫折。どうしても成年後見人材育成研修の受講をせばあとなあへの登録が必要となり、そのために基礎研修Ⅲの受講が必要だということで一念発起。基礎研修Ⅰを受け始めてから足掛け7年をかけて終了することができました。

私が勤務する那珂川町は、栃木県で1位の高齢化率。

一人暮らしの高齢者も多く、私が担当している中でも、認知症で一人での生活が難しく感じる方がいます。遠方のご家族の支援や近隣での見守りや助け合いもあり、介護サービスを受けながら自宅での生活が継続できています。しかし、中には身寄りもなく、成年後見制度を必要としている方もかなりの人数がいることとされます。那珂川町では成年後見を受任している社会福祉士は1名しかおらず、利用している方もほとんどいないのが現状です。

7年間かけて社会福祉士として基礎を学ばせていただき、社会福祉士としてやっとスタートラインに立てたような感じもしています。地域福祉にさらに貢献できる様に、これから後見人材育成研修を受講し、平成から次の時代への幕開けとともに、前に進んでいきたいと思っています。

福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。
掲載内容：①氏名(ひらがな)、②所属、③趣味、④実践へのおもいのたけ

- ①惣福 輝美 (そうふく てるみ)
- ②栃木市社会福祉協議会
- ③子供のバスケット観戦
- ④今まで、主に高齢者の分野を中心に仕事をしてきました。デイサービスや介護保険制度が始まり、手探り状態での介護支援専門員の仕事、自分の知識不足から後悔することも多々あり、担当件数も多く、ご利用者へ十分な関わりがもてないこともあり、ご迷惑をかけたことと思います。その後、包括支援センターで社会福祉士として地域の方との関わりをもつことができたことは、今までとは異なる視点から地域を見ることができた貴重な機会となりました。力量不足で、自分に何ができるのか模索する日々でしたし、虐待対応や金銭管理についての関わりには他機関との協力は必要不可欠なものでした。老人福祉セン



ターでの業務は、ドライバー片手にネジの緩みを直したり、屋上に登って屋根の点検をしたり、地下ピットに潜り、探検気分で水漏れの確認など、もちろん来園するお客さんの対応もしました(笑)。今でも、建築物を見ると壁のひび割れや天井の状態など気になって見る習慣が付き、施設管理の大変さを痛感しています。どの仕事も、一人ではできない、常に上司、同僚はもちろん、他機関等との連携・協力なくしては解決できないことばかりです。今は、現場からは少し離れての仕事ですが、今までの経験の積み重ねを活かして、地域や利用者の方にいかにより良いサービスができるか、少しでもお役に立てるよう努力していきたいと思っています。
今回は、栃木市役所の吉澤 洋介さんにバトンをつなぎます。

会長の視点

一般社団法人 栃木県社会福祉士会

会長 原田 欣宏



間もなく元号が平成から改まる。まさに時代が一区切りとなる。この30年間で福祉のあらゆる制度、提供されるサービス、人々の意識も変わっていった。

私たち社会福祉士の国家試験も第一回の試験は平成元年である。受験者が1033名、合格者が180名から始まり、現在は合格者数の累積が229,515人となっている。栃木県社会福祉士会の会員数は533名(2018年11月30日現在)であり、県民の福祉向上に向けた取り組みを組織的に行うことについて期待される会員数になったといえよう。

平成元年はバブル経済の最盛期であり、当時大学生であった私自身の記憶にも福祉分野の仕事についてのイメージは「所得保障中心」であり、施設は特別な場所で、人里離れた場所に建てられた迷惑施設のような扱いであった。それが30年を経て「地域包括ケアシステムの実現」を目標に、誰もが起こりうる生活の困りごととして、社会全体で取り組むべき問題という位置づけまで得られるようになった。この先もこのくらいのペースで切れ目なく社会システムの構築に向けた取り組みが続くであろう。

私の大学時代は社会学科で、ゼミの所属は宗教社会学が専門の教員であった。当時学習の題材として新宗教を取り上げていた。時代的には19世紀に創始された黒住教、天理教、金光教からオウム真理教、法の華三法行までを含む。なぜ、若者を中心にこれらの教団にかかわるようになっていったのか、ということがゼミでの学びのメインクエストであった。そこは人間関係、コミュニケーション、地域社会の切り口を学ぶ「宝箱」であった。

社会福祉の実践は倫理観を基盤とした実践でなければならない。そのために社会共通の価値観をどのような方向に導くのか、実践に裏打ちされた真の権利擁護を基盤とする「言葉」が必要である。世の中を変革していくためのメッセージを出し続けることは大切なことである。

社会福祉士会とは、人々の尊厳を尊重し、住み慣れた地域の中で安心して共に暮らせる社会の実現に努めることを憲章で定めている専門職団体である。この先も真摯に取り組み、もって県民の福祉向上に努めなければならない。

授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方々が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

社会福祉法人 ころもみる会 多機能事業所 あかまつ作業所

住所：足利市田島町 621 - 1

電話：0284-43-2527 FAX：0284-43-2665

1958年にころも学園初代園長川田昇氏と当時の特殊学級の中學生たちによって開かれた山の葡萄畑を望む地に当作業所はあります。当作業所は、多機能型事業所として就労継続支援B型と生活介護事業を展開しています。



就労継続支援B型事業では、葡萄畑の恩恵を受けて、葡萄の枝を使った炭や醸造場の樽を使い、アンティーク調の小物や室内装飾品などに加工したり、牛乳パックを再利用した葉書きやのし袋などを作ったり、野菜作りも行っています。畑で収穫された野菜も含めて



商品は、ココ・ファーム・ワイナリーのレストランやショップの他、ハートショップ※などで、販売してお

り、おかげさまで売り上げは好調です。又請負作業としては、ココ・ファーム・ワイナリーから、スパークリングワインのルミヤージュ（動ビン作業）や、リサイクルハンガーの仕分け、箱折り等を行っています。

(有)ココ・ファーム・ワイナリー レストラン&ショップ
電話 0284-42-1194

※足利市内の障がいがある方が通う施設で作られた商品の販売を通して、障がい者の理解促進を



図る取り組み。市内の商業施設（アピタ足利店コムファースト広場）や市役所、足利赤十字病院などの各種イベントブースにて開催されるショップ。



多機能型事業所 グーフォ・かわち

住所：宇都宮市中岡本町3178-3

電話：028-673-0002 FAX：028-671-0785

社会福祉法人河内四つ葉会が運営する多機能型事業所「グーフォ・かわち」は、就労継続支援B型事業（15名）・生活介護事業（25名）・日中一時支援事業を運営しています。



利用者の皆さんは、受注班、パン班、農園芸班、織物班の4つに分かれて作業

しているので、順に紹介させていただきます。

受注班は、企業数社からの下請け作業（部品加工や梱包）がメインですが、



Tシャツやバッグなどのプリント印刷も承っており、プリントしたい柄（文字、絵、写真）があれば、世界に一つしかないオリジナルグッズを作れます。ぜひ、ご相談ください。

パン班は、主にパン（惣菜系・菓子系・食パン系）と焼き菓子（ドーナツ・ラスク・クッキー）を作っ

いて、毎週月曜の昼頃に宇都宮市役所1階わく・わくショップUで、毎週火曜・木曜の昼頃に河内地区市民センターとNHO宇都宮病院でそれぞれ販売しています。素材にこだわった正統派のパンで、昼食にぴったりです。販売時にはパン班の利用者さんも袋詰め等で接客しますので、ぜひ、応援してください。

農園芸班は、花壇苗と野菜を栽培・販売しています。花壇苗はリースプランター等に活用していて、契約いただいている高齢者施設や病院に毎週伺い、水かけや花摘みなどの管理をしています。また、宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会から受託してパンジー1000鉢を毎年納品しています。

織物班は、さをり織で反物を作っており、ボランティアの皆さんのご協力を得て、事業所のトレードマークであるフクロウのブローチ、コースター、バッグ、マフラー等の商品が生まれています。ちなみに、わく・わくショップUでの売れ筋No.1はスマホケースです。



同じものは2つとありません。ぜひ、お気に入りの一品を見つけてみてください。

社会福祉法人 河内四つ葉会 和久井 隆

今日の一冊

「ソーシャルワーク記録（改訂版）」

副田 あけみ 小嶋 章吾 編著

皆さんは、普段の業務でどのくらい記録のことを意識しているでしょうか。お恥ずかしい話ですが、これまでは私自身あまり意識的に記録はしていませんでした。もちろん日々の業務で仕方なく記録はしていましたが。

そんな私に記録の重要性を一からご指導いただいたのが、小嶋章吾先生です。その先生が編著者として刊行されたのが今回ご紹介する本になります。

ソーシャルワークにとっての記録は、ワーカーの実践過程の振り返りということだけでなく、福祉サービスの提供方法の変化により、これまで以上にクライアントに対しての説明責任が求められています。また、多職種連携や包括的相談体制の構築、ICT技術の進歩といった点からも、従来の記録の在り方から大幅に見直しが求められてきています。

本書はこれら記録を取り巻く包括的な変化をふまえ、これからの記録の在り方を理論的かつ実践的にまとめられています。また、この本の白眉な点が、「生活支援記録法」という、先生が新たに開発された記録法が紹介されていることです。同記録法はこれまでのソーシャルワークに関する記録法の弱点を補強し、より実践に即した方法です。私自身、先生から直接教えを受け、記録の書き方や、実践の考え方まで革新的に変え

ることができました。同記録法についてはすでにあちこちで研修が行われていますが、今後、一つのスタンダードになることは間違いないと思います。

最後に、実は本書の第4章第2節は私が執筆

させていただきました。更に、巻末の執筆者紹介を見れば、皆さんご存知の名前があると思います。先生の意向で、県内の専門職が執筆する機会を得ることができました。そういう意味で、まさしく本書は本県を代表する一冊になったと思います。



那珂川町地域包括支援センター

立川 正史

情報の広場

今回は、生涯研修センター（研修部会）の紹介です。

生涯研修センター 研修部会長 片桐 洋史

生涯研修センター（研修部会）の紹介

生涯研修センター（研修部会）は、基礎研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび任意研修、実習指導者養成研修の企画、運営を主な業務としています。

基礎研修は、年間で基礎Ⅰは2回、基礎Ⅱは9回、基礎Ⅲは11回の講義・演習があります。受講者は社会福祉士資格を取られてすぐに参加される方から職場経験を経て、改めて研鑽を積もうとする方まで、分野も年齢層もさまざまです。多職種だからこそ、グループワークで交わされる議論は活発です。異なる経歴からくる斬新な視点と現場にいるからこそ感じる現実的な意見がからみあい刺激的です。基礎Ⅲまで受講するためには、課題の提出と時間のやりくりが大変ですが、毎回顔を合わせる受講者同士は気心知れた家族のような雰囲気になっていきます。基礎Ⅲを修了することで、認定社会福祉士の資格要件の一つになり、成年後見資格取得の必須条件にもなります。

任意研修は、平成30年度2回実施しました。7月に小嶋章吾氏（国際医療福祉大学）による「相談援助記録の実践的な書き方」を、11月に保正友子氏（日本福祉大学）による「あらためて相談援助技術を学ぶ」を実施しました。研修参加者の反響は大変おおきく、続編の声も上がっています。

実習指導者養成研修は、現場で実習生を受け入れる際の指導者の養成とフォローアップの講座です。「コミュニケーションスキルの学習など職場に戻ってから活用したいと思った。」「指導者の研修でありながらも今の仕事を振り返る機会にもなった。」これは平成30年11月17日に行われたフォローアップ研修の感想ですが、利用者の気持ちと専門職の考えがわかる受講者にとって自らの器を広げる実のある内容だったと思われる。

生涯研修センターは制度・政策から相談援助技術まで、日々の実践に役立つ多様なテーマで研修を行っていますので、ご自身の興味関心のある分野で企画に参加してみませんか？定期的に会合を行っていますので、各研修会等でスタッフにお声掛けください。

以下の写真は12月2日、平成30年度基礎研修Ⅲの最後の講義を終えた受講生とスタッフです。



栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT（プロジェクトチーム）の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

- 社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。
- お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

生涯研修センター（富田氏）

県北ブロック（上新氏）

広報委員会（福原氏）

権利擁護委員会（阿部氏）

社会福祉評価委員会（篠崎氏）

総務企画委員会（増淵氏）

生涯研修センター

富田 裕之

今年度、組織の改編がありました。生涯研修センターには3つの部会ができました。

1つめは、研修部会。基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、任意研修、実習指導者養成研修の3種類の研修の企画・運営を担っています。詳しくは、研修部会の紹介をご覧ください。

2つめは、調査研究部会。昨年度の成果については、

会員の皆様のお手元に「栃木県における高齢者の貧困状況の実態とその支援のあり方に関する調査研究報告書」という形で届いているかと思えます。今後も、県民の福祉の向上に資する調査研究活動を行う予定です。

3つめは、地域包括ケアシステム部会。地域包括ケアシステムを構築していく過程において、日常の業務における多職種連携の実践力を高めるためには何が必

要かと思出すことを当部会の役目とし、多くの社会福祉士の皆様に還元していきたいと考えています。

各部会の活動に興味のある会員の皆様、一緒になって活動したい会員の皆様は、生涯研修センターまでご連絡ください。

県北ブロック

上新 達也

日本社会福祉士会news190号を拝読していたところ、以下の文章が目にとまりました。

「ソーシャルワーカーとしての倫理綱要や行動規範は変化しない」(P8～P9)

現代の日本は超高齢社会にともない滞日外国人問題など新たな課題が次々と噴出しています。しかしどんなに課題が変化しようが、ソーシャルワーカーの倫理綱要や行動規範は変化しない……。社会福祉士は協調性・柔軟性をもちつつも、「根」にはしっかりとした倫理綱要・行動規範がなくてはなりません。

県北では、この「根」の部分にスポットをあて、国際医療福祉大学の石先生をコーディネーターとして集まりをもちたいと考えます。

みなさまどうぞよろしくお願いいたします。

広報委員会

福原 健治

委員会の開催とメール等のやり取りで、広報誌を作成させていただきました。

今回は新元号に代わることとなるので、平成を振り返り、現状の福祉の把握と将来の福祉について考えることをテーマに文章を作成させていただきました。皆様の実践の参考になればと思います。

また、ホームページやメルマガでも各委員会や研修会の情報を配信しておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

権利擁護委員会

阿部 和史

権利擁護委員会の虐待対応センターでは契約市町に対して、栃木県弁護士会のセンター登録メンバーとチームを作り、虐待対応センター専門職チームとして、派遣を行っています。これらは契約市町が、虐待対応において措置入所や成年後見制度での首長申立や養護者支援、終結へのアプローチ、訴訟のリスクなど、行政としての対応への不安の解消や方向性の修正を行ったりするため、専門職の派遣を依頼します。今までは、高齢者虐待のみでしたが、来年度から障害者虐待においてもチーム派遣を開始します。

もうひとつの新たな試みとしては、検察とシステムを構築の上、検察の判断により起訴は見送られたが、軽犯罪の原因対して福祉的支援が必要な方に対し、検察が適切な支援とリファーを行うために、社会福祉士会としてアドバイザー派遣を開始する予定です。

また、上記の狭義の意味での権利擁護だけでなく、広義の意味での権利擁護の視点を忘れないように、日々、活動しております。

社会福祉評価委員会

篠崎 文男

社会福祉評価委員会の主な活動は、第三者評価と外部評価です。第三者評価の活動は、福祉サービス事業者の提供するサービスの質に対して、評価機関が客観的に評価する事業です。評価対象の事業所は、栃木県内の保育所、障がい者事業所、特別養護老人ホーム、児童養護施設などです。外部評価の活動は、認知症対応型共同生活介護事業者（認知症対応型グループホーム）が行う事業者に対して評価機関が客観的に評価する事業です。どちらの評価活動も事業所の欠点を指摘したり、指導するのではなく、事業所の努力・工夫している点を評価する活動を行っています。今年度の受審状況は、第三者評価が2件、外部評価が32件となっており、各事業所の信頼を得ながら評価活動を実施しております。

現在、当委員会は会員を募集しております。評価活動に興味のある方は、共同事務局にお問い合わせください。宜しく願い致します。

総務企画委員会

増淵 祐子

『年会費増額に対するパブリックコメントの公表について』

栃木県社会福祉士会では昨年、年会費増額に関するパブリックコメントを募集し、お陰様で27件のご意見を頂きました。

貴重なご意見をお寄せ下さいました皆様には、厚く御礼を申し上げます。

当会の考え方も含め、まとめたものを栃木県社会福祉士会ホームページに掲載いたしましたので、ご覧いただけますようご案内します。

なお、インターネット環境がないため印刷物での郵送を希望される方は、栃木県社会福祉士会事務局までお名前と会員番号をお知らせください。

(ホームページ URL) <http://www.tochigi-csw.org/>

共同事務所 6 団体通信

ソーシャルケアサービス共同事務所に所属している各団体の活動を紹介する掲示板です。

栃木県精神保健福祉士会

栃木県精神保健福祉士会

今年度実施した研修・事業等

- ・平成30年6月10日（日）
第1回研修会「地域包括ケアシステムを学ぼう
～精神保健福祉士に求められるもの～」
地域包括ケアシステム構築支援事業都道府県密着
アドバイザー 遠藤 真史氏
- ・平成30年7月22日（日）
関東ブロック合同研修会「必見！新時代の支援観
～これからの精神保健福祉士に求められることと
自分の育て方～」
- ・平成30年9月9日（日）
日本精神保健福祉士協会基幹研修Ⅰ
- ・平成30年12月1日（土）
栃木県精神衛生協会との共催研修
『子どもを診療するということ
～児童の精神医療で求められること～』
講師：川村学園女子大学大学院人文科学研究科
教授 恵愛会青木病院 渡邊 昭彦 先生

これから実施予定の研修・事業等

- ・平成31年2月6日（土）
P S W首都圏災害ネット研修会
テーマ：「群馬D-WAT 始動！西日本豪雨災害に
おける災害派遣福祉チームの活動」
講師：群馬県社会福祉協議会、群馬D-WAT
- ・会員による座談会

新しい取り組みなど

- ・P S W首都圏災害ネットへの参画（関東地区7都県
協会との共同研修企画運営）
- ・ソーシャルアクション（生活保護基準額引き下げに
対する見直し等の要望書提出）

入会について

- 入会金なし、年会費5,000円。
条件：公益社団法人日本精神保健福祉士協会の構成員
であること（入会金5,000円、年会費15,000円）
※若年かつ経験の浅い精神保健福祉士の会費減額対
象者は10,000円（入会金5,000円、年会費5,000円）

平成30年11月末現在、社会福祉振興・試験センター

統計において、栃木県の精神保健福祉士の資格登録数は1,062人ですが、当会入会者数は100名程度と約1割程度となっております。より多くの資格者に入会していただけるような魅力ある職能団体を目指して、様々な活動に取り組んでいく所存です。

メッセージ等

精神保健福祉士はまだ社会的な知名度が低い専門職だと感じています。その反面、働く場は精神科病院や障害福祉サービス事業所のみならず、今や行政、教育機関、司法関係機関、児童福祉関係など急速に拡大しており、その果たすべき役割も多岐にわたるようになりました。そのような中で、精神保健福祉士としてのアイデンティティを見失うことなく、多職種の皆さまと協働できる専門職の育成にも力を入れていきたいと考えております。

6団体の皆さまと協力しながら、互いの強みを活かしつつ、社会貢献を果たしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

【会報についてのご意見や投稿を 募集しております！】

取り上げて欲しい内容や会報の感想、また掲載して欲しい投稿をお寄せください。

ご意見や投稿は、「会報の意見」とタイトルをつけて、事務局FAX（028-600-1730）でお送りください。差し支えなければ氏名、連絡先をご記入ください。匿名でも結構です。

皆さまの貴重なご意見を会報作りの参考にさせていただきます。

編集後記

昨年のNHK大河ドラマ「西郷どん」に登場していた幕末のヒーローたちが、私の住む栃木県北に住んでいたことをご存知でしょうか。西郷従通（西郷隆盛の弟で初代海軍大臣）、大山巖（西郷隆盛の従弟で初代陸軍大臣）、三島通庸（薩摩出身で元栃木県令）、乃木希典（長州出身で陸軍大将）、松方正義（薩摩出身の元総理大臣）など、彼らは明治という新しい時代を築き上げましたが、栃木県北の那須野ヶ原にも水利を開削し農地開墾も成し遂げてくださいました。

今年は元号が変わり、新しい時代の幕開けとなりますが、栃木県社会福祉士会も新しい福祉の時代を築いていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

（福原）